

アカデミック・リンクは進化する 「新しい学習環境の創造と課題」

千葉大学アカデミック・リンク・センター

2012年11月21日

第14回図書館総合展

イントロダクション アカデミック・リンクの取り組みと直 面する諸問題

竹内 比呂也

千葉大学附属図書館長,
アカデミック・リンク・センター長

2012.11.21

アカデミック・リンクによる千葉大学の教育改革

目的:「考える学生の創造」

「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ学生の育成

アカデミック・リンク

「学習とコンテンツの近接」による能動的学習の実現

コンテンツ構築・提供、情報基盤、人的支援、学生のニーズに
適した学習空間の統合・連携による学習・教育の革新

アクティブ・ラーニン
グ・スペース

コンテンツ・ラボ

ティーチング・ハ
ブ

千葉大学中期目標・計画<教育方法改善への取組、アクティブ・ラーニングの重視>

大学に対する社会的要請

- 知識基盤社会、学習社会における市民の育成
- 高等教育のグローバル化の中での質の維持・向上
- 職業人としての基礎能力、創造的人材の育成

学生のニーズ

- 自由に使える学習スペース
- 文章作成力、ディスカッション能力、問題解決能力
- 英語によるコミュニケーション能力

授業

「授業資料ナビ」

CONTENT

動画教材、授業映像

伝統的
図書館
蔵書

電子
ジャー
ナル・e-
books

誰でも
使える
Web上
の資源

PLACE

教材・
教科書
の電子化

レファ
レンス
デスク
@AL

オフィ
スア
ワー@
AL

ALSA-
LS

CURAT
OR(機
関リポジ
トリ)

ブックツリー
(見せる書棚)



SUPPORT

「1210あかりん
アワー」

「見る」
「見られる」空間
での活動

学生から見たアカデミック・リンク

「学び」に導く刺激にあふれた場所、学びの基盤としてのコンテンツ、人的サポート

千葉大学附属図書館、アカデミック・リンク・センターの建物構成

学生支援センター(厚生施設)

書庫・静寂な閲 覧席

書庫的空間

研究開発、コン テンツ・ラボ、 ティーチング・ ハブ

（愛称 I 棟）

南棟(増築)
(愛称:N棟)

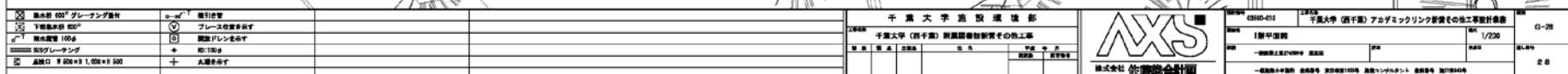
図書館新館 (愛称:上棟)

P1

平成24年11月
オープン予定

アクティブ・ラーニング・スペース

かたらいの森



空間設計の基本的な考え方

- 開放性、透明性の高い空間（「見る」、「見られる」環境）
- 学習成果を公表する場を持つ
- 機能分化（静寂空間／討議空間）
- 利用における自由度が高い（N棟：机、椅子、ホワイトボードを自由に動かしてよい）

コンテンツの提供の基本的な考え方

- 学生が利用したいときに、電子媒体でも印刷媒体でも迅速に入手できるようにする。図書館蔵書にこだわらず、購入も一つの選択肢として考える。教材の作成支援も視野に入れる。
- コンテンツとして以下のようないものを想定
 - 1) 公刊された出版物に代表される著作物
 - 2) 著作物の一部(あるいは全部)を再パッケージ化した教材(コースパック)
 - 3) 授業録画(授業中に提示される著作物がその中に含まれる)
 - 4) 著作物の一部を利用して、教員が独自に作成した教材
 - 5) 完全にオリジナル作成された教材

人的サポートの基本的な考え方

- 学生、図書館員、教員によるハイブリッドな人的サポート
 - 学生、図書館員、教員がどのような役割を担うべきか、試行錯誤的に追求
 - 「学習支援デスク」
 - 「レファレンス・デスク」
 - 「オフィスアワー@アカデミック・リンク」

- Academic Link Center
- 「今日の報告では...」
 - 「学習コンテンツの作成」
 - 授業動画作成
 - オリジナル教材作成
 - 「人的サポート」
 - 大学院生による学修支援
 - 「空間を生かす」
 - 「1210あかりんアワー」
- についてご紹介します。